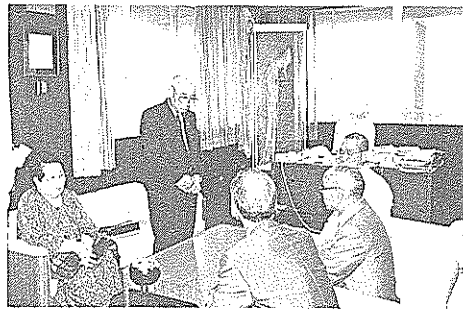


市の教育、文化の

発展のために

島村六郎さんが五百万円を寄付



あいさつする島村六郎さん（左から二人目）

て活躍されていますが、昭和四十三年に三島神社にあった島村衛吉碑を現在の場所に移転する際初めて来高、以来当時の教育長であった故利岡富次さんと親交を結んできました。

この日奥さんの幸さんとともに市役所を訪れた六郎さんは、「父も郷里に帰りたいと思いつながら果たせませんでした。その父への親孝行と、祖父の墓を史跡として守ってくださっているお礼の気持ちです。少しでも市の文化事業に役立ててください」とあいさつ。それを受けて市長は「ご希望に添って使わせていただきます」と話していました。

市教育、文化事業に役立ててもらいたいと、幕末の志士島村衛吉さんの孫で現在東京都多摩市に住む六郎さん（七十九歳）が市に五百万円を寄付、七月二十五日に市長を訪問して目録を手渡ししました。

衛吉さんは土佐勤王党に加盟して武市瑞山の片腕として活躍しましたが、文久三年八月十八日の政変の際の勤王党の獄のとき捕らえられ獄死。墓は久枝にあり、市指定の史跡となっています。



島村衛吉碑（久枝）

—— 同和教育シリーズ ——

一人一人をたいせつに

私たちの周りには、いろいろな差別や偏見がまだまだたくさん残っています。

南国市においても「お互いの人権を尊重しあい、差別のない明るい社会づくり」を目指して、もろもろの事業や教育活動を実施してきました。

教育委員会では、同和教育の学習を中心とした地区懇談会や同和教育推進講座を実施しています。

このような取り組みのなかから「同和教育は部落の人たちだけの問題ではない。また、学校においても、「同和教育は、人権を大目にする教育で、教育の原点である。」という認識が育っています。

推進講座に参加したある婦人は次のように感想を書いてくれました。

「六十二年度同和教育推進講座に参加し、ほんとうによかったと思います。」

今まであまりにも無関心で、正しい知識も実態も知らず、日常生活でもそれほど差別などしたこともないと思っていたが、この講座も終わり振り返って見て、今

まで漠然とした考えしか持っていなかった私は、知らず知らず人々を傷つけていることもあったのではと反省させられました。

部落の歴史を学ぶなかで、江戸時代に封建社会を維持するため、当時の支配者によって身分制度が作られ、明治四年に解放令が出され、四民平等となったにもかかわらず、百年以上たった今も部落差別のある実態を知りました。そして長い間つらい忍従の日を過ごした人々を思うとき、私たちが早く意識変革に自覚めて、差別のない世の中になるよう努力しなければならぬと痛感しました。

第三講座で現地学習をし、うれしく思ったのは、ほんとうにひどい小屋のような家から改良住宅に入居でき、文化生活ができるようになりつつあること、道路の整備もされつつあること、地区内学習に取り組んでいることなどです。

特に識字学習で老人が毎週二回通い、学習していることはたいへん胸を打たれました。

このように地区の人たちが自らを高める努力をしていることを知り、部落問題に対する正しい勉強をさせていただいてほんとうによかったと思います。

この講座を受ける前と今では、かなり意識が変わったように思います。これからは日常生活で、この勉強会で学んだことを生かして輪を広げていき、よき社会人になるよう心にとめて生きていきたいと思っています。」

同和教育推進講座などの学習会に参加できない市民もたくさんいます。そこでこの問題をより広く認識していただくため、今回から毎月十五日号に同和教育シリーズを掲載することになりました。

内容は地区懇談会の場で出た意見や疑問に解答するとともに、これらの会で学習した内容を探り上げたいと考えています。

家庭、職場、団体、地域等での同和教育の資料にしたいだけあればありがたいと存じます。

【教育委員会社会教育課】

